The late Prof. Michitaka UDA
(1905 — 1982)
元会長宇田道隆理学博士を悼みて

昭和57年5月10日、日本海洋学会賞会員、元会長、宇田道隆先生御逝去の急報に接し、会員一同巨星墜つ
る思いにただただ深い悲しみに闭ざされ、謳んで心より哀悼の意を表するものであります。

先生は昭和2年东京帝国大学物理学科を卒業後、水産講習所に入りになり、先ず「潮目の模型実験的研究」
をお始めになりました。昭和8年には第一次北大西洋路岸一干海里一斉調査を実施、世界に先がけて多数の調査
船による同時観察をなさいました。昭和12年より黒潮異変調査に従われ、異常冷水塊出現に伴う流潮蛇行につい
て初めて報告をなされ、現在もこの現象は世界の研究者の好研究題目であります。昭和14年東京大学より「海洋
の潮目の研究」で理学博士号を授与されました。

この間、昭和6年日本潜水学会創立に御参加、昭和16年1月本学会創立に御参画、評議員となりました。
昭和17年神戸海洋気象台長、22年には長崎海洋気象台長、24年には東海区水産研究所長、26年には東京水産
大学教授、43年には東海大学教授、53年から水産中央センター所属の研究若手等を歴任された。学術行政や学生
の指導、研究に寸暇もない御活躍があり、先生が育成されされた海洋研究者がはまことに数多いのであります。昭和41年には「海況の総覧的研究」で第一回日本海洋学会賞を受賞いたしました。

また先生は数々の国内、国際の海洋学会議、各種の委員会の委員として御活躍されましたが、なかでも
昭和45年9月、世界ではじめて海洋関係各専門分野の学協会が合同して東京で開催した第1回合同国際海洋科学
大会（JOA）には、大会委員長として見事にその重責をはたされました。昭和37年には水産海洋学会を創られ
られ、昭和40年には海洋の環境問題に関心があわれたことなども我々の記憶に新たたものがあります。

日本海洋学会にはあって、創立参画の一人であられ、爾来、評議員として御活躍、昭和25年副会長、昭和46年
度より49年度まで会長をお務めになり、学会発展に巨きな足跡をお残しになりました。発表発表会ではいつも最
前列の席で聴いてノートをとられ、活発に御討論をなさるなど、会員に与えられた感銘は誠に大きなものがあり
在りし日の面影はいつまでも会員の胸に残ることであります。本学会で先生のこれからの御功績に対し昭和
50年に名誉会員職を賜りして先生をお称えになりました。このように先生は世界の海洋研究、特に海況の総覧的研
究、水産海洋研究の先駆者でまた指導者であった者であります。先生の歩んでこられた道は、すなわちそのまま水産海
洋学の生えたもであり歴史であります。

また先生は海に関する一般向けの科学書で随筆も数多く、昭和14年、岩波新書の「海」とは啓蒙書として洛陽
の紙価を高かきもめたものであります。その他短歌、俳句と詠に多才であられ、海を慶餘とした52年の歌会始の
召人もおてもつとめになり、55年には「海の心・歌句集」を御出版になりました。

海洋研究もひとつの転機を迎えようとしている時、所断の先駆者である指導者であった先生が突然として不
帰の旅に立ちました。誠に痛恨の情を禁じ得ません。薄くは、在天の御霊の安らかにと、御冥福をお祈
り申し上げます。

昭和57年5月15日

日本海洋学会会長 南 日 優 夫

OBITUARY
Professor Michitaka UDA

The Society sadly has to report the death of Professor Michitaka UDA on May 10, 1982
who was an honorary member and former president of the Oceanographical Society of Japan.
His passing away is a great loss to the Society and the scientific community as a whole.

Professor UDA graduated from the Institute of Physics of Tokyo Imperial University in
1927 and then entered the Imperial Fisheries Institute. In 1929, he moved to the Imperial